

## 令和5年度 東京都立大泉特別支援学校 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 都立大泉特別支援学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主幹)＝事務局長、他主幹教諭1名 計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長・副校長、経営企画室長、主幹教諭5名 計9名
- (4) 協議委員の構成  
東京都立大学 健康福祉学部教授、練馬区立小中一貫教育校大泉桜学園学校長  
大泉障害者支援ホーム 次長、大泉学園町長栄会副会長、  
西東京市生活介護事業所 LifeDesign あくと施設長  
本校PTA会長、本校卒業生、本校卒業生保護者 計8名

### 2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和5年6月23日(金) 内部委員9名、協議委員4名  
協議委員委嘱  
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、  
本校の現状と課題等説明、意見交換
  - 第2回 令和5年11月2日(木) 内部委員9名、協議委員6名  
学校経営計画中間報告、校内学校評価教員アンケート報告、見学  
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価(アンケート)の内容検討、協議
  - 第3回 令和6年2月9日(水) 内部委員7名、協議委員7名  
学校評価(アンケート)集計結果報告、分析・考察、提言まとめ  
協議委員からの教育活動に対する意見
- (2) 評価委員会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和5年6月23日(金) 内部委員2名 評価委員2名  
今年度の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察  
今年度の学校評価の実施に向けた検討
  - 第2回 令和5年11月2日(木) 内部委員2名、評価委員3名  
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
  - 第3回 令和6年2月9日(金) 内部委員2名 評価委員2名  
評価報告書(原案)及び提言の検討

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価アンケートの観点  
学校経営計画の実施、児童・生徒への指導について、保護者への適切な情報提供の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象
  - ・実施時期 11月
  - ・対象 生徒、保護者、学校介護職員、教員(非常勤教員は除く)
- (3) 主な評価項目(項目の詳細は、別紙参照)  
学校経営計画、学習指導、人権教育、個別指導計画・年間指導計画の利用・活用、  
外部専門家の活用、生活指導、進路指導、特別活動(校外行事)、交流教育、健康・安全、施設・設備
- (4) 令和4年度、学校評価アンケートに基づく提言
  - 1) ICT機器の活用と活用状況の共有

教員・学校介護職員の ICT 機器の活用力、それらを用いた指導力の向上

2) 進路情報の提供

進路情報の提供方法の検討、小・中学部の保護者が高等部での実習や卒業後の生活を知る機会の設定

3) 教育活動の情報提供

情報提供方法についての見直し及び情報内容を保護者と共有していくことについて教員の意識の向上

2 学校評価アンケート結果の詳細

(1) 回答数及び回答率

対象	( ): 対象人数	回答数	回答率	令和4年度回答率
生徒	(4)	4	100%	100%
保護者	(92)	66	72%	74%
学校介護職員	(24)	24	100%	100%
教員	(53)	53	100%	100%

(2) 結果集計の方法

各項目の選択肢別(「十分」、「ほぼ十分」、「やや十分でない」、「十分でない」、「分からない・該当なし」)回答数、全回答に占める各選択肢の回答割合について、別表に掲載した。

(3) 結果の分析と考察

ア 評価の高い項目

「十分」、「ほぼ十分」の合計が80%以上の項目を、「評価の高い項目」とした。対象ごとの評価の高い項目の数は以下の通りである。

対象	評価の高い項目数 (全項目数)	評価の高い項目の占める割合 (昨年度)
生徒	4 (16)	25.0% (6.0%) ↑
保護者	22 (28)	78.5% (64.3%) ↑
教員	22 (27)	81.4% (63.0%) ↑
学校介護職員	14 (16)	87.5% (94.0%) ↓

<考察>

今年度は、評価の高い項目の割合が生徒・保護者・教員のアンケートで上昇し、学校介護職員のアンケートで低下した。高い評価の割合が、保護者アンケートで78.5%、教員、学校介護職員アンケートで80.0%を超えており、項目の活動が評価に結びついていると考えられる。保護者アンケートでは、より改善への取組をすすめること、教員、学校介護職員アンケートでは、高値を保つように今後も継続して取り組む必要があると考えられる。

イ 評価の低い項目

「十分」「ほぼ十分」の合計が80%に満たない項目を、「評価の低い項目」とした。そのうち、「やや不十分」「不十分」の合計が15%以上の項目を以下の表に示す。対象ごとの「評価の低い項目」は以下の通りである。

(ア) 生徒

生徒については、評価の低い項目は12項目であった。

	評価項目	「やや不十分」「不十分」
1	学校は楽しいですか。	25.0%
2	授業はわかりやすいですか。	25.0%
4	教員と学校介護職員は、チームワークよく皆の指導にあたっていますか。	25.0%

10	先生は、「〇〇さん」とさん付けて呼んでいますか。	25.0%
12	先生は体罰根絶（言葉による暴力・適切ではない介護などを含む）に向けて努めていますか。	25.0%
13	進路の情報を詳しく教えてもらっていますか。	25.0%
14	先生はよく話を聞いてくれますか。	25.0%
15	教室などはきれいに片付いていますか。	25.0%

#### (イ) 保護者

保護者については、評価の低い項目は6項目であった。

	評価項目	「やや不十分」「不十分」
9	タブレット端末等の ICT 機器は、学校の授業で活用されていますか。	28.7%

#### (ウ) 教員

教員については、評価の低い項目は5項目であった。

	評価項目	「やや不十分」「不十分」
7	授業や家庭学習支援で、タブレット端末等の ICT 機器を活用することができていますか。	20.7%

#### (エ) 学校介護職員

学校介護職員については、評価の低い項目は2項目であった。

	評価項目	「やや不十分」「不十分」
9	教員と協働して、授業でタブレット端末等の ICT 機器を活用することができていますか。	29.1%
16	あなたは、業務の効率化を行い、働き方改革に取り組んでいますか。	16.6%

#### <考察>

- ・「やや不十分」「不十分」の合計が15%以上の項目が、生徒・学校介護職員アンケートで増加し、保護者・教員アンケートでは、減少した。生徒アンケートに関しては、対象人数が少なく、1回答が割合に与える影響が大きい特徴がある。生徒が「やや不十分」「十分でない」と回答した項目については、早急な改善が必要である。保護者・教員アンケートでは、「やや不十分」「不十分」の合計が15%以上の項目が減少し、改善が見られた。
- ・「ICT機器の活用」に関する項目では、生徒アンケートでは、「十分である」「ほぼ十分である」との回答が100%であり、評価が高いことが明らかとなった。一方、保護者・教員・学校介護職員アンケートでは、評価が低かった。「やや不十分」「十分でない」と回答した割合は、昨年度からの数値と比較すると、保護者は、42.4%→28.7%、教員は、25.4%→20.7%、学校介護職員は、26.1%→29.1%であった。保護者、教員アンケートからは、改善が見られる一方で学校介護職員アンケートからは、その活用が難しい状況が明らかとなった。今後も引き続き、ICT機器活用のための取組を進める必要がある。
- ・「交流」に関する項目は、教員・保護者アンケートで評価が低かったが、昨年度と比較すると、「やや不十分」「不十分」の合計が15%以上の項目はなく、改善が見える。副籍交流や学校間交流において直接的な交流が増え、より充実した活動ができるようになったことが一因として考えられる。
- ・「進路情報」に関する項目は、保護者アンケートでは、「十分である」「ほぼ十分である」との回答が80%を超え、評価が高いことが明らかとなった。一方、教員アンケートでは、「十分である」「ほぼ十分である」との回答が79.2%であった。両者ともに進路情報の提供の、改善が明らかとなった。今後もニーズに応じた進路情報の提供を継続していく必要があると考える。

ウ 今年度への提言に上がった項目について

今年度への提言に上がった項目について、3年間の「十分」、「ほぼ十分」の合計の変化を以下に示す。  
(前年度から5%以上の増減を↓↑で示す。)

(ア) ICT 機器の活用と活用状況の共有

		令和3年度	令和4年度	今年度
生徒	授業や家庭学習で、タブレット端末等の ICT 機器を活用していますか。	未実施	75%	100% ↑
保護者	タブレット端末等の ICT 機器は、学校の授業や家庭学習で活用されていますか。	未実施	30.3%	59.0% ↑
教員	授業や家庭学習支援で、タブレット端末等の ICT 機器を活用することができますか。	未実施	69.0%	75.4% ↑
学校介 護職員	教員と協働して、授業でタブレット端末等の ICT 機器を活用することができますか。	未実施	69.5%	66.6% -

<考察>

生徒・保護者・教員アンケートで改善が見られた。保護者・教員・学校介護職員アンケートでは、評価が低値であるため、引き続き改善への取組が必要である。

(イ) 進路情報

		令和3年度	令和4年度	今年度
生徒	進路の情報を詳しく教えてもらっていますか。	75%	75% -	75% -
保護者	お子さんが必要とする進路情報（地域での卒業後の生活等）について提供されていますか。	71%	69.7% -	86.3% ↑
教員	保護者が必要とする進路情報（地域での卒業後の生活等）を提供していますか。	77.8%	70.9% ↓	79.2% ↑

<考察>

保護者・教員アンケートより評価が高く改善されたことが明らかとなった。現在の取組を継続していく必要がある。

(ウ) 教育活動の情報提供

【授業参観】

		令和3年度	令和4年度	今年度
保護者	授業参観や授業参観週間等は、指導の様子を知る機会として行われていますか。	—	86.4%	92.4% ↑
教員	授業参観で保護者に指導の様子を伝えていますか。(※今年度より設定)	—	78.2%	84.9% ↑

【お便り等による情報提供】

		令和3年度	令和4年度	今年度
保護者	学校から情報発信（各種お便り、マチコミメール、ホームページ、Twitter）の、回数・内容は十分ですか。	93.1% -	95.5% -	93.9% -
教員	保護者へ十分な情報発信（各種お便り、マチコミメール、ホームページ、Twitter）を行っていますか。(※今年度より設定)	未実施	85.5%	90.5% ↑

<考察>

「授業参観」「お便り等による情報提供」とともに評価が高値であった。今後も継続して取組を行っていく。情報提供の方法は、ICT を活用したアンケートの実施や出欠席の確認に取り組んでいる。今後も都の施策を

もとに社会や家庭のニーズに応じた改善を実施していく必要があると考える。

※令和3年度は、「授業参観」に関する項目については、感染症対策として、授業参観を実施していないため、評価対象としていない。

## エ 自由記述より

自由意見の一部は、以下の通りである。(原文から内容を抜粋)

(生徒)

記載なし

(保護者)

- ・年度当初、子供の病状や状況を伝える書類等は、ワード等で記入できると有難い。
- ・学校からの配布資料は紙ではなくマチコミアプリなどを使用して電子化してほしい。
- ・年間の写真が少ないと思います。増やして頂くか、保護者に購入出来るようなどしてほしい。

(教員・学校介護職員)

- ・時差勤務・時短勤務が増えてきた中で、授業時間は変わらないので、指導体制や会議の持ち方、情報の共有などに苦心しているが、まだ改革途中と感じる。

## 4 令和5年度 東京都立大泉特別支援学校 学校運営連絡協議会 まとめ

### (1) 今年度の学校運営において特に評価される取組について

- ・進路情報の提供について適切な情報の提供がなされたこと
- ・本校支援部とPTAとの共催により進路学習会を実施することができたこと
- ・昨年度に比べ、副籍及び学校間交流を積極的に実施することができたこと
- ・医療的ケア実施において保護者待機の短期化を図り、5月連休明けには待機を解消したこと
- ・PTAと協力し、PTAオータムフェスタを実施することができたこと

### (2) 来年度への提言

学校運営連絡協議会アンケートの集計結果及び分析・考察等により、以下の内容についての充実を図っていくこと。

- (1) ICT 機器活用のための環境設定と更なる学習環境の整備・拡充
- (2) 進路情報について情報提供の継続と最新情報の発信の充実
- (3) 教育活動の情報提供においてICT機器を含めた様々な方法での広報活動の検討と改善
- (4) 医療的ケア保護者待機の早期解消の更なる推進と全ての関係医療機関との連携の充実
- (5) 教職員一人一人がより自らの働き方を意識できる働き方改革の実施

## 5 第3回 学校運営連絡協議会より協議委員の学校運営について意見

(1) 協議委員人数 7人

(2) 意見

- ・授業の中では、実物を教材にして取り組んでデジタルと併用していて良い。
- ・PTA活動が一部再開することができてよかった。
- ・授業見学では、どの授業でもモニターが活用しており、ICT機器の活用が伺えた。

## 6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 0回 延0名 企画調整会議 0回 延0名

【成果】なし

## 7 その他

- ・昨年度に引き続き、Formsを活用してアンケートを実施した。